

ICTを活用した

# 不登校を始めとする 長期欠席生徒支援の取組み ～実践事例紹介～

福岡県桂川町立桂川中学校

# 全国の登校できていない児童生徒が、 一人でも多く登校できるように

令和元年10月25日に文部科学省から「不登校児童生徒への支援の在り方について」が通知されました。この通知には、不登校で学習機会を失っている児童生徒に対して、ICTを活用して家庭学習をした成果を、学校長の判断によって出席扱いと認めることができるという内容が記載されています。

福岡県桂川町立桂川中学校では、様々な事情で登校できない生徒が社会的な自立を目指せるよう、教育委員会や外部の専門家と連携しながら、2021年度からライズeライブラリアドバンス（以下、eライブラリ）を活用した不登校生徒支援の在り方を模索しています。

生徒は、学習指導要領に対応したeライブラリの教材で小学1年から中学3年までの国語、算数・数学、理科、社会、英語の5教科※を難易度別に学習でき、自分のペースを保ちながら、その頑張りや学びの成果に見合う評価を得ることができています。教員は、家庭での学習履歴を把握することで、登校できない生徒とその保護者に対して、適切な助言をされています。

この取材を通して、桂川中学校の管理職の先生方が、教育委員会と連携しながら、ICTの強みを生かして、長期的・組織的に不登校支援に取り組まれている姿や、本取組みの要となる生徒支援委員会での、不登校の生徒一人ひとりに適したより良い支援策を見つけ出すためにと情報共有・意見交換をする先生方の姿が大変印象的でした。

文部科学省の通知を根拠にして、生徒が家庭で学習した成果を「出席」と扱う桂川中学校の不登校生徒支援の取組みを一実践としてご紹介することにより、全国の登校できていない児童生徒が、一人でも多く学びの支援を受けることができ、その先にある登校することや社会的に自立していくことを目指せるようになれば幸いです。

※中学校は実技教科と読解スキルのドリルを収録

福岡県桂川町立桂川中学校では、文部科学省の通知文をもとに教育委員会と学校が連携してICTを活用した不登校生徒支援に取り組んでいます。

## 福岡県桂川町立桂川中学校



### 【学校情報】

- ・ 規模 生徒数330名／教職員数34名／全14学級
- ・ 導入機器 Chromebook（全生徒全教員に各1台）／校務用PC
- ・ 学校教育目標 「自ら学び、夢の実現に努力を重ね、たくましく前進する生徒の育成」

### 【取組概要】

2021年度より、不登校や病気療養による長期欠席、感染症対策の自主休校などにより、登校できない生徒に対して、eライブラリを活用した「出席扱い」の取組みを行っています。

## 桂川中学校の不登校生徒支援に関する資料

eLAつうしん 2022年4月増刊号

インタビュー動画 2022年3月

福岡県桂川町立桂川中学校  
不登校を始めとする長期欠席生徒支援の取組み  
～ドリアの学習履歴と生徒支援委員会～

桂川町立桂川中学校

▲資料はこちら

▲動画はこちら

## Column

### 不登校児童生徒が自宅においてICT等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取扱いについて

(別記2)

不登校児童生徒が自宅においてICT等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取扱いについて

#### 1 趣旨

不登校児童生徒の中には、学校への復帰を望んでいるにもかかわらず、家庭にひきこもりがちであるため、十分な支援が行き届いていないと言えなかったり、不登校であることによる学習の遅れなどが、学校への復帰や中学校卒業後の進路選択の妨げになっていたりとする場合があります。このような児童生徒を支援するため、我が国の義務教育制度を前提として、一定の要件を満たした上で、自宅において教育委員会、学校、学校外の公的機関又は民間事業者が提供するICT等を活用した学習活動を行った場合、校長は、指導要録上出席扱いとすること及びその成果を評価に反映することができることとする。

令和元年10月25日に文部科学省から、不登校児童生徒に対して、ICT等を活用した自宅学習を「出席扱い」と認めるよう通知が出されました。



▲資料はこちら





全教職員が連携して、登校できない生徒に対して「出席扱い」と認める取組みを行っています。ここでは、インタビューに応じていただいた先生方をご紹介します。

## 校長



いしだ ひでき  
石田 英喜 先生

平成30年度より桂川中学校に勤務。以前は、教育委員会教育相談室に所属。

全国の学校に、桂川中学校の取組みを紹介したいと熱い思いで取材に応じてくださいました。

## 教頭

やまなか よしみち  
山中 祥道 先生

令和4年度より桂川中学校に勤務。以前は、教育委員会教育指導室に所属。

生徒と保護者の気持ちに寄り添い、ICT全般を活用した不登校生徒支援を推進しています。

## 情報担当

いしさか ひろひと  
石坂 浩仁 先生

校内のICT活用に向けた環境整備を担当。

現在は、eライブラリを全校で運用するためのノウハウを若手教員に引き継いでいます。

## 生徒支援委員会担当

ささき こうへい  
佐々木 公平 先生

生徒支援委員会を担当し、不登校生徒の補助指導を担当。

eライブラリの学習履歴をみとり、一人ひとりに合った支援策を模索しています。

## 学級担任

くさの りんのすけ  
草野 倫之介 先生

学級担任として不登校生徒を指導。

家庭訪問での保護者とのやり取りを通して、直接会えない生徒に対して学習支援をしました。

## Column

### 外部の専門家の役割



外部の専門家としてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが助言や指導に入ります。生徒本人と保護者の相談に乗り、それぞれの立場の悩みを聞いて仲介役になっています。

また、生徒支援委員会では、教員にカウンセリングの内容を共有しているため、家庭の状況や背景を理解した上で、教員が三者面談に臨むこともできます。

もし、家庭の経済的な問題や就労に関する問題で生徒が登校できなくなっているのであれば、外部の専門家の助言をもらい、「子育て支援課」や「福祉課」とつないでいきます。

# 生徒一人ひとりの学びを保障するために

## eライブラリを活用した不登校生徒支援の取組みを始めたきっかけ

不登校生徒支援に取り組んでいる生徒には「登校できないけど、どうにか一生懸命勉強したい」という思いがあります。そのような思いを持った生徒が学習面で不利にならないように、私たちはeライブラリを活用した不登校生徒支援に取り組み始めました。

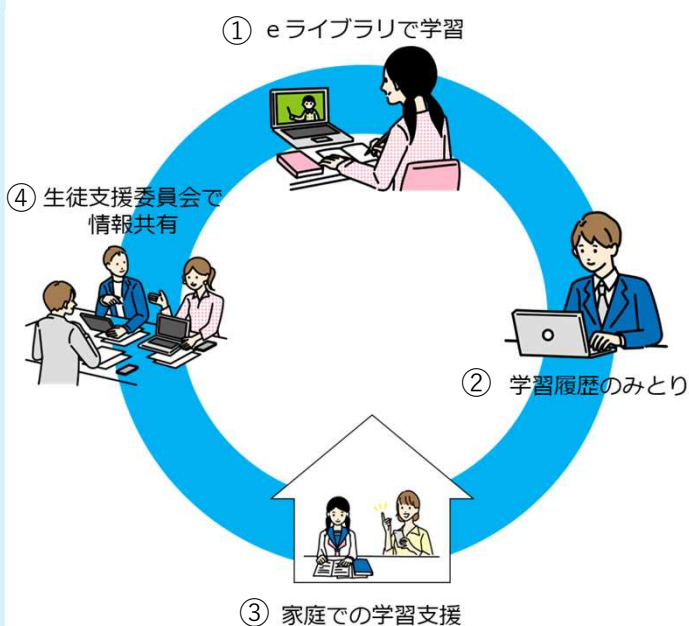
現在、不登校や病気療養による長期欠席、感染症対策の自主休校など本人の力ではどうしても解決できない事情で、突然登校できなくなってしまう生徒が増えています。生徒が通常通りの学校生活を送ることが難しい場合でも、eライブラリを始めとするICT機器を活用することができれば、他の生徒と同様に学習する機会を得ることができます。教員が学習履歴をみとり、生徒に適切な支援をすることで、生徒も保護者も学校とのつながりを維持しています。



桂川町立桂川中学校 校長  
石田 英喜 先生

## eライブラリを活用した不登校生徒支援の取組みについて

### 桂川中学校の不登校生徒支援の取組み イメージ図



ICTを活用した家庭学習の取組みを評価するために、生徒本人のやる気と保護者の協力が**不可欠**です。

桂川中学校の不登校生徒支援では、①生徒が自宅でeライブラリで学習する、②教員が生徒の学習履歴をみとる、③学習履歴を参考にして、保護者に学習支援をお願いする、④生徒支援委員会で家庭訪問時に得た情報を教員間で共有することで、自宅での生徒の学習を支援しています。登校できない生徒に対して、eライブラリで学習する環境を提供したことで、生徒は自ら学習し、学習履歴を記録として残すことができるようになりました。また、教員は学習履歴を「出席扱い」の判断材料に生かして、生徒の頑張りに見合った評価ができるようになりました。

eライブラリで学習する環境に整えたことで、すべての生徒に対して学習機会を保障しています。様々な事情で登校できなくなってしまった生徒が「学びたい!」と思える学校を目指して、学校と家庭が連携しながら、家庭学習の取組みを評価できるしくみづくりをしています。

# 桂川中学校の不登校生徒支援の取組みの詳細

## eライブラリを活用した学習履歴のみとり

### 家で学習した「教科」と「学習時間」を確認

科目	学習回数	学習時間	平均点	目標点	達成率	ドリル学習回数	ドリル学習平均点	ドリル学習目標点	ドリル学習達成率	学習内容確認回数	学習内容確認平均点	学習内容確認目標点	学習内容確認達成率
2022/02/21	80	100	80	100	80%	1	20	20	100%	2	20	20	100%
2022/02/21	100	100	100	100	100%	0	0	0	0%	1	10	10	100%
2022/02/21	100	100	100	100	100%	0	0	0	0%	1	10	10	100%
2022/02/21	100	100	100	100	100%	0	0	0	0%	1	10	10	100%

教科	実施回数	平均点	目標点	達成率	ドリル学習回数	ドリル学習平均点	ドリル学習目標点	ドリル学習達成率	学習内容確認回数	学習内容確認平均点	学習内容確認目標点	学習内容確認達成率
数学	未実施	-	-	-	4	95	5%	2	-	2	-	2
国語	未実施	-	-	-	8	97.5	0%	5	-	0	-	0
英語	未実施	-	-	-	5	96	0%	10	2	0	-	0
理科	未実施	-	-	-	4	95	0%	3	-	5	-	5

生徒は、先生と保護者と話し合いながら、**最大限の努力で達成できる目標を設定して、eライブラリで学習します。**

先生は、家庭訪問の前に、各教科で十分な学習時間を確保できているかを確認します。定期考査を受けたあと、生徒は「毎日学習していたけど、量が足りなかった」と、eライブラリの学習をふりかえり、次の目標を設定します。

#### ▲ ドリル結果詳細と教科別学習回数



生徒

eライブラリに取り組んでいたのに、テストで良い結果を出せなかった。勉強量が足りなかったのかも…。

次回は、もう少し学習時間を長めに設定してみよう！



担任の先生

## 学校と家庭の連携

### 「取組姿勢」から生徒が前向きに学習し続けるための声かけを

月	課題実施数/目標数	実施率	自主学習回数	自主学習平均時間	自主学習目標時間	自主学習達成率	コミュニケーション回数	ログイン回数
4月	1/16	6.3%	4	12.6	0/0	0/0	0	7
5月	未実施	-	1	59.6	0/0	0/0	0	9
6月	6/31	19.4%	70	13.8	3/20	2	19	
7月	11/42	26.2%	26	12.6	4/16	3	30	
8月	5/6	83.4%	7	9.3	0/0	0	34	
9月	8/23	34.8%	1	9.6	0/10	0	12	
10月	4/7	57.2%	2	9.4	3/17	0	19	
11月	3/14	21.5%	0	6.6	4/77	0	44	
12月	11/45	24.5%	6	20.1	7/32	0	26	
1年	4/46	8.7%	18	14.9	12/63	0	11	
2年	未実施	-	4	65.1	0/17	0	10	
3年	未実施	-	-	-	0/0	-	-	

#### ▲ 先生メニュー 成績管理 取組姿勢



保護者

先週よりもたくさん勉強したね。自分のペースで少しずつ増やしていけると良いね！

家族も応援してくれているから、もう少し頑張ってみようかな…。



生徒

eライブラリの成績管理から、各教科の学習時間や取組姿勢がわかるので、**先生が生徒の頑張りを認める**きっかけにもなり、生徒は、さらに頑張るようになりました。

**保護者も学習の過程と成果がわかる**ことで、「先週よりも頑張ったね」など、子どもの頑張りを応援しやすくなりました。

## Interview

### 直接会えなくても、生徒に必要な学習支援を

eライブラリの「成績管理」から、集中的に取り組んでいる「教科（単元）」や「学習時間」を確認することができます。その学習履歴をもとに、直接会うことが難しい生徒には「今、こんな勉強をしているんだね」と保護者を通して伝え、学校と保護者が情報交換をしながら、生徒の様子を把握していました。また、定期考査の結果や生徒の状況などから、今後eライブラリでどのように学習するべきかも助言しています。



担任  
草野 倫之介先生



## 生徒支援委員会での情報共有

### 「生徒支援委員会」で生徒の毎週の状況を共有し新たな支援策を決定



毎週の「生徒支援委員会」では、各学年の先生が集まり、気になる生徒の家庭環境や友人関係、精神的な不調などを共有しています。特に登校できていない生徒は、eライブラリの学習履歴を参考にすることで、家庭での学習の様子を知ることができます。

先生方は、生徒の悩みや現在の状況を伝え、**管理職やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーから必要な情報や今後の対応など助言を得ながら、新たな支援策を決定しています。**

▲管理職、学年の先生、スクールソーシャルワーカー、サポート教室担当者など様々な視点から支援を検討



担任の先生

本人も少しずつやる気になって、学習時間が伸びています。

夜学習していることが多いね。登校できるようになるためには、午前中に学習できるといいよ。



校長（教頭）先生

## Interview

### 自ら学び、夢の実現に努力を重ね、たくましく前進する生徒

文部科学省からの通知文を根拠に、生徒・保護者・教員が、生徒の社会的自立に向けて懸命に取り組み、本校の「出席扱い」が成り立っています。**eライブラリの家庭学習を通して、生徒が褒められる喜びを実感し、自ら先生に質問しながら、主体的に学習する様子が見られるようになりました。**

地域が抱える問題や人間関係など困難な状況に置かれ、全国的に登校できない生徒が増えています。一度くじけてしまってもそこから立ち上がって、「学校に通いたい！」と生徒が思えるよう、地域・学校・家庭が一丸となって取り組んでいます。



校長  
石田英喜先生

## Column

### 非認知能力を高めることが社会的自立や学校復帰につながる！



桂川中学校では、**不登校の生徒にはまず元気や自信、やる気が身に付くことを期待して、eライブラリを活用しています。**eライブラリを使って家庭で学習したことが、出席や評価につながれば、対象の生徒や保護者の励みや次の目標になります。


実際に、自分の努力が認められた経験を積み重ね、一度も登校できなかった生徒が学校に来ることができました。

このようにeライブラリを活用することが、**生徒の学習意欲を高めたり、登校にチャレンジしたりするなどの変化につながっています。**

## 文部科学省の通知を根拠に、自治体と学校が一貫して不登校生徒支援に取り組んでいる

(別記2)  
不登校児童生徒が自宅においてICT等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取扱いについて

1 趣旨  
不登校児童生徒の中には、学校への復帰を望んでいるにもかかわらず、家庭に引きこもりがちであるため、十分な支援が行き届いていないと見えながら、ことによる学習の遅れなどが、学校への復帰や中学校卒業後の進路に支障をきたしている場合があります。このような児童生徒を支援するため、まず前提として、一定の要件を満たした上で、自宅において教育委員会、公的機関又は民間事業者が提供するICT等を活用した学習活動の指導要録上出席扱いとすること及びその成果を評価に反映させる。



▲不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）

### 福岡県不登校児童生徒支援グランドデザイン （第1版）

～多様で適切な教育機会の確保による社会的な自立を目指して～



▲福岡県不登校児童生徒支援グランドデザイン

令和元年10月25日に文部科学省から、不登校児童生徒に対してICT等を活用した自宅学習を「出席扱い」と認めるように通知が出されました。

福岡県では、各学校が有効な実践例を知ることができるように不登校児童生徒支援に特化したグランドデザインを作成しています。

## 管理職が通知の意図や学校の方針を伝え、教員が共通理解して組織的に支援・指導する



校長・教頭

管理職は文科省や教育委員会から出された通知を基に、学校の状況に合わせて内規を作成します。



生徒支援委員会  
職員会議など

生徒支援委員会の代表者で協議し、職員会議で全職員に周知します。



学級担任

学級担任は、生徒の頑張りや保護者の願いを理解し、学校の支援方針を伝えます。

## Interview

### 新学期に全校でeライブラリのガイダンスを

情報担当が主軸となり、eライブラリの学習に必要なIDカードの印刷や端末の設定、情報モラルに関するスライド作成を担当しています。その情報をもとに、新学期には、学級担任がガイダンスを実施し、生徒がスムーズにeライブラリで学習を始められるよう環境を整えています。

不登校だけでなく、感染症対策による自主休校や病気による長期欠席など様々な理由で登校できない生徒がいます。生徒が学校に来ることができない状況になっても、学習の機会を得られるように環境を整え、教員をサポートしています。



情報担当  
石坂 浩仁 先生



## 【生徒】

- 短時間で学習できるので、だんだんと学習に気持ちが向かうようになった
- 得意苦手に応じて問題の難易度を自分で選び、自分のペースで学習できるようになった
- 学習習慣が身に付き、将来の進路についても少しずつ考えられるようになった
- 「0」だった出席扱いの日数が「10」「20」と増えていくことで、自信ややる気につながった
- eライブラリで学習した成果を出すために、不登校の生徒が定期考査を別室受験することができた
- 定期考査を受験することで、評定にも反映することができた



## 【保護者】

- 学習履歴から「先週よりも頑張ったね」など、子どもの頑張りを応援しやすくなった
- eライブラリで学習すると、「出席扱い」として認められることが喜びになった



## 【先生】

- 紙の課題は、家庭訪問で教材を受け渡し、生徒は受け取った教材しか勉強できなかったが、eライブラリは教材が豊富に収録されているため、教材の準備や家庭訪問の負担を減らすことができた
- 直接、会うことができない生徒に対しても、eライブラリ上で学習履歴を把握して、家庭訪問で保護者に生徒への支援をお願いすることができるようになった
- 学習履歴から、生徒が家でも頑張っていることがわかり、安心して支援策を検討できた



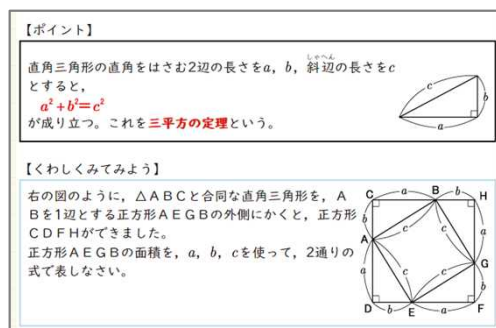
## 家庭学習に利用しているeライブラリの教材

### A1型ドリルは3つの難易度で一人ひとりの理解度に応じた学習を支援



A1型ドリルには、基本・標準・挑戦の3つの難易度があります。すべての問題にヒント・解答解説がついており、理解を深めながら学習できます。

### 解説教材は簡潔にまとめられ自主学習向けの教材として最適



解説教材は、要点が赤字や太字でわかりやすくまとめられているため、頭の中を整理するときにも役立ちます。

eライブラリの詳細は、下記URLあるいはQRコードより「ラインズ株式会社 コーポレートサイト」をご確認ください。  
[https://www.education.jp/education01/education01\\_1](https://www.education.jp/education01/education01_1)



全国の小中学校で不登校児童生徒支援の取組みを始めるにあたり、桂川中学校の先生方に質問をいたしました。今後の学校での取組みの参考にしてください。

## Q 桂川中学校で取組み始めたときの課題はありましたか？



教員が生徒の取り組んでいる様子を実際に見ることができないということが大きな課題でした。また、ICTを活用した家庭学習は根拠が確立されていないから、踏み切れなかったというのは要因の一つにありました。

このような課題は、eライブラリの学習履歴をみとり、教員間の連携や保護者の協力体制が整っていくことで少しずつ解決されていきました。課題に対して様々な不安がありましたが、生徒の「登校できるようになりたい」という強い思いに応えたいという一心でこの取組みは始まりました。

## Q eライブラリからどのような学習データを見とることができますか？

学習した教科、時間、平均点、月ごとの学習時間帯、課題の取組状況などを確認できます。（以下画面例）

教科	学習回数	平均点	学習時間	学習回数	平均点	学習時間	学習回数	平均点	学習時間
数学	6	62.5	0%	17	42.9	16.2%	15	1	17
国語	14	63.5	7%	13	53.1	0%	13	7	1
英語	8	65.9	3.3%	62	54.6	0.7%	3	-	8
理科	10	63.5	5.3%	16	63.8	0%	11	-	17
地理	8	63.5	0%	32	62.5	4.1%	3	-	13
歴史	4	62.5	0%	16	67.6	0%	12	7	1
保健	未実施	-	-	5	63.4	0%	3	1	0

▲成績管理：個人成績

教科	学習回数	平均点	学習時間	学習回数	平均点	学習時間	学習回数	平均点	学習時間
4月	未実施	-	-	0/0	-	-	-	-	-
5月	未実施	-	-	0/0	-	-	0	1	-
6月	4/6	66.7%	26	13.9	49/59	2	26	-	-
7月	62/96	65.7%	262	14.5	23/51	2	76	-	-
8月	3/3	100%	42	13.4	0/0	1	65	-	-
9月	16/21	76.2%	17	16.9	0/0	0	32	-	-

▲成績管理：取組姿勢

月	学習回数	平均点	学習時間	学習回数	平均点	学習時間	学習回数	平均点	学習時間
4月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月	21	9	21	-	-	-	-	-	-
7月	18	168	133	132	11	1	1	1	1
8月	6	12	7	15	2	1	1	1	1
9月	6	3	12	7	1	1	1	1	1

▲成績管理：学習行動

## Q 学習履歴から個別に学習支援するためにはどうすれば良いでしょうか？



Aさんは60分学習できても、Bさんは30分しか学習できないかもしれません。周り比べて低い目標に見えても、その生徒の最大限の頑張りで達成できる目標であれば、成果として認めます。Bさんが1週間後に10分でも多く学習できるようになれば、その生徒の成長とみとることができるからです。

全員同じ基準で「最低60分はしてください。そうしないと出席扱いになりません」と学校が押し付けてしまうと、不登校生徒にはハードルが高すぎて、最初からチャレンジすることをあきらめてしまうかもしれません。

## Q 家庭訪問では、生徒や保護者とどのようなやり取りをしていますか？



資料やIDカードだけを渡しても、操作することが難しいご家庭もあります。そのため、初回訪問では、生徒が自力でeライブラリを操作できるように、本人の前でIDとパスワードを入力して、ログイン方法を説明します。

本取組みでは、保護者が家庭での学習をサポートすることになります。教員は、保護者から生徒の様子を聞いたり、学校で取り決めた支援策を伝えたりすることで、生徒に対して、保護者が適切に支援できるよう助言します。

## Q 家庭が不登校生徒に対してどのくらい積極的にかかわっていますか？



学校と連携をとりながら、生徒と保護者が「親子共々、懸命に努力していきます」という想いがあり、ご協力いただけることが前提になります。定期的に、学級担任と保護者が、生徒の学習状況や生徒支援委員会で取り決めた内容を情報共有しながら、生徒の学習に対して助言できるよう保護者に協力を仰いでいます。

また、経済的な問題が不登校の要因になっている場合には、スクールソーシャルワーカーが生徒の学習とは別の視点で、保護者の就労、支援金の申請などに関して助言を行うこともあります。

## Q 「福岡県不登校児童生徒支援グランドデザイン」とは何ですか？



福岡県の教育委員会の生徒指導係は、不登校児童生徒支援に特化したグランドデザインを作成しています。このグランドデザインをもとに、学校や教員に具体的に指示を出しています。生徒指導に関する研究機関として、福岡県教育センターがあり、生徒指導部会と県内6ヶ所の出張所に、それぞれの担当の指導主事がおり、県内の効果的な実践を集めています。そのおかげで、桂川中学校のような新しい取り組みをいち早く許可することができます。

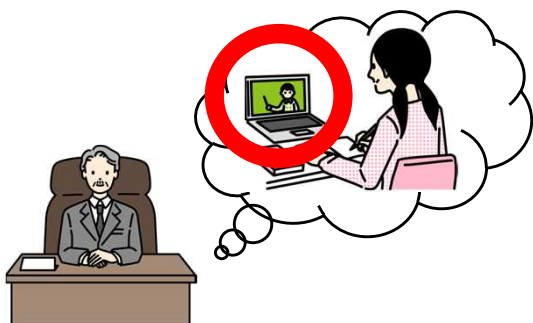
## Q 国の通知文には、「出席扱い」に関する基準を細かく定めていないが、桂川中学校ではどのように「出席扱い」と判断していますか？



国や教育委員会が不登校児童生徒支援に関する大枠を示しているため、学校は実態に合わせて細分化したルールを取り決めています。

例えば、桂川中学校の内規には、①担任が出席を確認する、②教科担任が学習した教材をタブレット上で見て評価をする、③その取組みに見合った評価を適切に本人に返すなどを記載しています。

## Q 全国の学校で「出席扱い」を認めることはできますか？



文科省の通知で国が方針を定めて「出席扱い」の取り組みを認めています。そのため、学校長が決定を下せば、様々な事情で学校に登校できない児童生徒に対して、出席扱いを認めることができます。

また、管理職である校長、教頭が国や教育委員会から出される資料を読み込み、学校の実情に合わせて、継続的に手法や判断基準が適切であるかを学校全体で協議・検討していく必要があります。

ラインズ株式会社は、不登校支援に取り組む先生方を応援しています。本冊子に関して不明な点がございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡ください。



# 学ぶチカラを、未来のチカラに

学びが未来をつくれます。

ラインズは、子どもたち一人一人が自ら未来を切り拓いていくための「学びに向かう力」を育むことを、全力で応援していきます。

そして、学びたいと思った時に、誰もが学び、チャレンジできる社会の実現を目指します。

**LINES**  
学ぶチカラを、未来のチカラに

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-20-15 高田馬場アクセス4F

TEL : 03-6861-6200 / FAX : 03-6861-6006

<https://www.education.jp/>

